

日本学研究论丛

第二辑

1997年号

孟克老师、沈茅一老师荣退纪念特集

北京外国语大学日语系 编

第二辑编委 林为龙
沈茅一
汪玉林

外语教学与研究出版社

.07

2:2

日本学研究论丛

第 二 辑

1997 年号

孟克老师、沈茅一老师荣退纪念特集

北京外国语大学日语系 编

第二辑编委 林为龙
 沈茅一
 汪玉林

外语教学与研究出版社

(京)新登字 155 号

图书在版编目(CIP)数据

日本学研究论丛 第二辑/北京外国语大学日语系编. —北京: 外语教学与研究出版社, 1998.2

ISBN 7-5600-1317-1

I. 日… II. 北… III. 日本-研究-文集 IV. K313.03

中国版本图书馆 CIP 数据核字(97)第 17675 号

日本学研究论丛

第二辑

北京外国语大学日语系 编

* * *

外语教学与研究出版社出版发行

(北京西三环北路 19 号)

北京外国语大学印刷厂印刷

新华书店总店北京发行所经销

开本 850×1168 1/32 10.25 印张 235 千字

314 1998 年 10 月第 1 版 1998 年 10 月第 1 次印刷

印数: 1—3000 册

* * *

ISBN 7-5600-1317-1

H·750

定价: 14.90 元



孟 克先生

1935 年 9 月生

1961 年 7 月毕业于外交学院外交
专业

1961 年 7 月—1962 年 8 月外交学
院日语教研室教师

1962 年 8 月—1995 年 7 月北京外
国语大学日语系教师

任职期间曾到日本大东文化大学
任客座教授

历任 日语系副主任
日语系主任等职

主要著作：

《日语基础教材》

《日语敬语》(译著)等



沈茅一先生

1936 年 5 月生

1960 年 7 月毕业于北京大学东语
系日语专业

1960 年 7 月—1962 年 7 月外交学
院日语教研室教师

1962 年 7 月—1997 年 7 月北京外
国语大学日语系教师

任职期间曾到日本大东文化大学
任客座教授

历任 教研室主任
学术委员会委员
教材编写组组长等职

主要著作：

《日本语》1~6 册

《日语基础》1~2 册等多本

论文：《並列助詞～“か”考察》
等数十篇

致孟克老师

1995年7月上旬某日，我站在日语系教室的门外偷听了几分钟日语系学生的日本文化课。也许教室内的学生没有察觉到这一次日本文化课是孟克老师从教以来最后一次课。孟克老师还是像几十年前一样，讲的如此认真、动情……我没有再听下去，静静地离开了教室的门口。

我后悔没有让学生们准备一束鲜花下课时送给孟克老师，或是让学生们举行一个谢恩会。

我与孟克老师结下师生之缘是在湖北省沙洋七里湖北京外国语学院办的干校。当时，我们从全国各地来到沙洋七里湖这所干校学习。学校原来是劳改农场，据说是改造国民党战犯的地方。我们到校后的战斗任务就是秋收——收获老生和老师种下的大豆、水稻、棉花、花生……老师们也与同学一起干。那时叫“三同”，即同吃、同住、同劳动。老师在讲台上又加了“一同”——同学习。

后来，才知道孟老师的夫人、孩子都留在了内蒙。用当时中国话来表达叫两地分居，用日语来说是“单身赴任”。

上课后的事，就是当时轰轰烈烈的教育革命。我们这些人学习日语不到半年，竟敢读起日文版的老三篇《为人民服务》来。孟老师认认真真地帮我们正音，现在看来也真难为了老师们。

而后，我留校任教。孟克老师任日语系主任时，我又当了她的副手。二十多年，我一直在孟克老师身边学习、工作，从老师的身上不仅学到了日语知识，更重要的是学到了做人的道理。现在孟克老师荣退了，但他的品德与知识已经传给了后来人，他的

学生也有了学生。高尚的品德会一代代传下去。这也许是教师的光荣所在。

值日语系出版文集，写上几句以表学生之情。祝孟克老师健康长寿！

学生：汪玉林

1998年1月

致沈茅一老师

同孟克老师一样，与沈茅一老师的师生之缘也是结于湖北省沙洋七里湖。沈老师也是三同老师。当时，日语教改组有三名老师，除孟克老师、沈茅一老师外，还有潘国男老师。老师们都是两地分居，留下家人，日夜与我们这些学生相伴。沈茅一老师是日语教改组的组长。那时的教改组长的担子很重。用戏剧中的唱词讲叫“肩上的担子有千斤重”。沈老师除了要与我们同劳动外，还要每日思考教育革命的大事，如何教好日语，如何搞好教材、教学的改革。这担子太重太重。同学们经常看见沈老师与孟克老师、潘国男老师开会。最难的是如何把学生带入外语的门。我与另几名笨蛋，几乎天天叫沈老师操心。发音这一关叫沈老师受了不少累。时间长了，我们发现沈老师饭量时多时少，学生们傻乎乎的问老师是否生病了。后来才发现沈老师的病根在学生身上。学生们学不好，沈老师跟着上火，也吃不好饭。

现在，我们同学相聚谈的最多的是湖北沙洋七里湖。当年的学生现在当上了爸爸、妈妈。而当时沈茅一老师、孟克老师、潘国男老师两地分居，单身赴任，为了我们这些学生献出那么多的心血。这一点，当年感觉不到，现在感觉到的太多太多。现在的学生像听故事一样，听我们讲当年。常问我们，那时苦吗？我们一笑，回答是：太幸福了。因为我们拥有为我们而无私奉献的老师。

学生：汪玉林

1998年1月

临退致辞

孟 克

系里编这本论文集，有关同志要我写几句话。我首先祝贺论文集问世，并祝愿不断地有新的论文集问世，以繁荣日语系教育事业。

1995年秋，我从北京外国语大学日语系退休。我在日语专业学习和工作了40年。40年来，我国日语教育事业有了巨大发展。40年前，我所在日语专业也不过只有2位老师，10位学生。那时全国的日语专业也不过三五处。40年后的今天，北外大日语系拥有34位教职员，在校学生175名。已累计为国家培养输送高、中级人材数千人。他们活跃在我国外交、外贸、新闻、商业、金融等领域。在职期间，能为日语系贡献自己一份力量，使我在退休时感到由衷的欣慰！

改革开放后，由于教学需要，除日语教学外，还担任了日本史、日本文化史课程。半路出家，一切从头起。虽经努力，但自己总感到不大满意。现在究其原因之一，大概还在于未抓到日本文化之源头。在明治维新前的漫长历史中，日本一直受到中国传统文化之深刻广泛而又巨大的影响。虽经百年全盘西化，至今日本文化仍保留着大量的中国影响。可以说，中国传统文化是日本文化的源头。而我对中国文化了解甚少，研究更是谈不上。加之，在近三十年间，中国传统文化之研究步履艰难。可学习、可参考、有新意的成果难找。在世界科学技术新发展和人类智慧新飞跃的推动下，在百家争鸣的气氛中，传统文化研究新人新成果不断涌现。只要我们能抓住机遇，跟上时代，刻苦学习研究，日本历史、日本文化史课程会办得越来越好。

国家规定 60 岁退休。可我不到 60 岁身体垮了。有些想做的事，该做的事，没有做或没做成。我体会国家的本意是要求健康地工作到 60 岁。我没能圆满地完成任务。现在明白其原因，是自己的无知。即不明白健康对人生、社会之重要。坏事变好事，现在健康恢复了。人的健康（心、身）是实现理想，服务社会的前提。从这个意义上看，没有健康就没有一切。我呼吁日语系的朋友们，特别是中、青年，要及早关注自己心身健康！以健康的心身，推动日语系的事业健康地发展！

編集者のことば

本論文集は北京外国語大学日本語学部全教職員の情熱と広範囲な日本学に対する積極的な研究心とに支持されて誕生するものである。1978年よりの改革開放政策の実施は、経済建設における発展とともに、全国的な日本語学習熱を促した。こうした時代の移り変わりは日本語教育に携わる教師の側にも大きな刺激剤となり、従来のような技能教育を中心とした言語教育から、より幅広い専門領域をも含めた研究にも力が注がれるようになりつつある。研究の深まりも日進月歩の勢いがあり、各大学や各研究機関で出版されている日本関係の書籍、論文なども、従来では見られなかった新時代の息吹きを感じさせる。本論文集もまだ未熟ながらこうした新時代の仲間入りをするわけであるが、各大学や研究機関などともより広範囲な交流ができることを切に願うものである。

本論文集は、日本の言語・文学・社会・文化など四つの領域にわたる17篇の未発表論文を収録させてもらった。このほかにも研究を続けているが、まだ未完成のため、残念ながら収録することはできなかったが、次期の論文集に期待することにしたい。

未筆ながら、本論文集の出版にあたって多大な配慮をしてくださった外語教学与研究出版社の薛豹氏とすべての関係者諸氏に心から感謝するものである。

1997年12月
北京外国語大学《日本学研究論叢》
1997年号編委会 林為龍
沈茅一
汪玉林

目 录

1. 並立の場合に使われる〈の〉の意味・用法 …… 沈茅一 (1)
2. 接尾辞「化」について …… 王 萍 (23)
3. 不定指示詞文とその中国語訳について …… 朱春躍 (36)
4. 「モラウ」の意味とその中訳について …… 続三義 (58)
5. ナ行系統否定辞「ぬ」の終止形としての用法について …… 徐一平 (78)
6. ヘノ格の名詞と名詞とのくみあわせ …… 彭広陸 (94)
7. 翻訳可能性の限度について …… 陶振孝 (133)
8. 近代の幕開けと近代文学思潮
——過渡期の文学より前期自然主義文学
まで—— …… 林為龍 (147)
9. 『トロッコ』から見る作家のイメージづ
くり …… 徐 瓊 (171)
10. 横光利一の転向について …… 応 傑 (180)
11. 『それから』について …… 熊文莉 (201)
12. 『伊勢物語』と中国文学 …… 周以量 (217)
13. 论《徒然草》的文学风格及其成因 …… 赵小柏 (226)
14. 夏目漱石与他的《怪声》
——试论夏目漱石文学创作基调
的转变—— …… 郑启燕 (233)
15. 「激動」の日本経済の一考察 …… 黄菊花 (248)
16. 日本の女子労働供給行動に関する実証分析 …… 丁宏偉 (262)
17. 中江藤樹——宗教的主宰者への「孝」—— …… 徐 滔 (292)

並立の場合に使われる 〈の〉の意味・用法

沈茅一

事柄を並べあげる〈の〉は聞き手を意識しての感動を表す間投助詞から転じてきたといわれている^①。〈の〉の意味・用法について従来は事柄を並べあげるのが普通で、〈だの〉〈とか〉の類語だといわれている^②。また対比・対照的な事柄を例示する^③、あるこれ言った他人の言葉を例示する^④という説もある。しかし、実際の用法についての詳細な分類はまだなされていないようである。本稿では実際の用例を分析し、意味・用法の分類を試み、また〈だの〉〈とか〉との差についても若干の考察をする。

集めた資料では〈AのBの〉の後に「という/って」（そのほかに言語活動を表す動詞もくる）がつづく用例がほとんどである。「と/って」のつかない用例もいくつかあったが、それも多く話の内容を表している。

用例の大半は他人の言った言葉をいろいろ並べあげる話し言葉である。実際の用例に当たってみると、次の3つの用法に分けられる。

- 一、だれかの言った（あるいは言う〈言った〉だろうと予想される）言葉をあれこれ並べて、ほとんどの場合、マイナス評価をする。
- 二、対比・対照的な事柄（言葉）を2つ並べて論争点、問題の所在を示す。

三、〈AのA 否定形の〉の形式でAを強調する。

以下用例の意味を分析しながら、その用法を考えてみる。

一、だれかの言った（あるいは言う〈言った〉だろうと予想される）言葉をあれこれ並べて、ほとんどの場合、マイナス評価をするもの

当たって見た資料では非難がましい気持ちをこめてあるいはマイナス評価を含めて使うものが大半を占めている。用例を少し細かくみるために一応非難がましい気持ちがはっきり現れるものと、否定的な評価はするが、非難の気持ちがあまりはっきりしないものとのに分けてみる。中にはもちろん割り切れないものもある。

まず非難がましい気持ちをこめてだれかの言った（言う〈言った〉だろうと予想される）言葉を並べる用例をみる。

〈AのBのって/AのBのという〉

- (1) 「どうしたって……兄様、さっき石鹼を取りに勝手に行くと、嫂さんとお梅さんと、二人で一緒になって、私の悪口を言ってるんだよ。あんな悪人はないの、天道様が見ているのって……」と声を震わせて、
「悪人でも何でも好い。大きなお世話さ」いかにも口惜しそうで、出かかった涙を袂で拭った。 （生・116）
- (2) 「増給がいやだの、辞表が出したいのって、ありやどうしても神経に異常があるに相違ない」 （坊・147）
- (3) 「……いや山科のお百姓の家に出養生をさしているの、いや南山城の親類が引き取ったのといって、みんな真空な嘘じゃありませんか。……」 （霜・461）

また、次の用例のように、3項目以上並べることも可能である。

〈AのBのCの〉

- (4) 「……まったくうるさい女だね。学校に少々寄付しているからといって、あの威張りくさった態度は何だい君。やれ教室がきたないの、下駄箱がみだれているの、B組は静かだけれどC組はいつもざわついているの、……大きにお世話じゃないか。教室のなかのことまであんな女に干渉される筋はないんだ」 (人・222)

いずれも非難がましい気持をこめて他人の言った言葉を列挙している。具体的に、例(1)では嫂さんとお梅さんが自分をののしった言葉を挙げて非難がましい気持でお兄さんに告げ口をする。例(2)では普通なら言うはずのないことを言う人に対する非難である。例(3)では事実と反する噂A・Bを挙げて詰問している。例(4)ではその威張りくさった態度の女が教室の中のことで干渉することに対して不満をもって非難している。

〈Aの何のって〉 〈Aのどうのって〉

- (5) ある時、銚之助が少し気に入らぬことを謂ったら、「馬鹿! 馬鹿! 小説を書くの何のって、生意気だ。そんなことで小説が書けるか」と罵った。
- (6) なな子は雪丸のひきあげかたを賞讃し、「あんなお金払わないのがあたりまえよ、取るほうが違ってるもの。ねえ染香ねえさん、さすがだわね。そこへ行くとなみ江ちゃんのばかったらないのね、訴えるのどうのって。いくじがないじゃないの。襦袢1枚とれないんだもの。……」 (流・53)

この場合のBには具体的な内容のかわりに疑問詞「なん」「どう」が使われている。それは漠然とそれ以外のAに類した内容を表している。あるいは取り上げるほどのものではないと軽んじる気持でわざとあいまいにぼかしていったりする。

また、次のような用例もある。

〈Aがどうの、Bがどうのという〉

- (7) こんな連中をまえにして、文学がどうの、芸術がどうのといっている中国博士は、まるきり豚に真珠をまいているようなものだ。(無・85)

「Aがどうの、Bがどうの」は「Aがどうだ、Bがどうだ」に近い。この例では相手を間違えて無駄なことをするもんだと中国博士を非難している。

〈なんのかんのって/なんのかんのと〉

- (8) 「誰がひでえんだ」

「あの安田のあっさんと一緒に歩くことにきめたなあい
いが、何のかんのって我儘ばかりいやがって。体のいい
小使よ、お蔭様で、今じゃ、こうやって煙草売りさ。あ
の野郎てんで動かねえんだ」(野・56)

- (9) 「……いくら云っても何のかんのと延ばしてばかりい
て、ちっとも誠意がない。いずれ呼び出しが来るだろ
う。」(流・92)

この2例はA、Bの両方に漠然と疑問詞の「なん」と指示語の「かん」が代用されているが、例(8)では「我儘ばかりいやがって」、例(9)では「延ばしてばかりいて、ちっとも誠意がない」でそのことを言っている相手(話し手)の我儘・弁解を非難する(この文の語り手の)気持を表す。

〈AのBのと 〓 〉

- (10) それも耀子と親父とが、うまく折れ合ってやって行けるというのならばともかくだが、耀子はこんな手紙が親父から来たということを知っただけでも、またヒステリーを起こして、「ダマされた」の、「裏切られた」のと、〓を演ずるにちがいない。(幕・93)

- (11) 「そんな、危ないようなこと、してるんでしょうか」
玉子はあわただしく支度しながら、腹立ちと心配が半

々である。

「何を大物みたいなこと、ぬかしとんねん」

三太郎の方はこれは、オール腹立ちである。

「尾けられてるの、ヤバイのと、探偵ごっこのつもり
で居るのん、ちゃうか」 (タ・322)

例(10)では妻が自分に言うだろうと予想した言葉を挙げ、不満をもらし、例(11)では息子の長太の言った言葉を引用して非難している。A、Bの後に■という語句が使われているが、A、Bは■の例示である。

以上 11 例をまとめてみると、文中か文の前後に~~~~で評価を表すような語句が使われている。たとえば「神経に異状がある」「うるさい女」「ヒステリをを起こして……大騒ぎを演ずる」などがそれである。そういう語句は、語り手の不満、軽蔑などの感情を表すものである。A、Bそのものがマイナス的な要素を持っていなくても、〈の〉で並べたら、マイナス的な意味合いをもつようになると考えられる。またそのような語句が使われていることによって文全体が感情的で、非難がましい意味合いをもつ。これがこういう文の特徴だといえるのではないだろうか。

次は非難の気持が薄くなるが、結果的には文の語り手にとって言われていること、挙げられていることに対してマイナス的な評価をしている用例である。

〈AのBの (Cの) という/AのBのって〉

- (1) ソクラテスは、ギリシアの偉い学者でした。何でもよく知っている、賢い人でしたが、子どものころから、とても気が短く、いつも怒ってばかりいました。

食事の時には、したくがおそいの料理がまずいのとっておりました。(お・311)

(2)「何が随分なの？」

と笑いながらお桂はわざと膝を進める。

「お婆さんが妬くの……半襟を買ってもらったのって、……私や真面目に聞いておれば、好い気になって；たんとお惚けなさいよ」(生・98)

(3) 竹中古城と謂えば、美文的小説を書いて、多少世間に聞えておったので、地方から来る崇拜者渴仰者の手紙はこれまでも随分多かった。やれ文章を直してくれの、弟子にしてくれのと一々取り合ってはいられなかった。(蒲・10)

(4) そういうことがあると、やっぱり品質が悪いのなんのといわれますが、価格競争力が出てきて、それが輸出につながっていることはまちがいない。(エ・52)

(5) そのときは、何の気もなく申込んだのだ。たぶん、いつもの玉子なら受講の通知が来ても、とても無理だとあきらめて打ち捨てておいたであろう。しかし、三太郎に何だか、この無趣味人間が、とバカにするような目つきでみられたり、娘に世帯くさいの、古いの、ふけたのといわれて腹を立てていた所なのだ。玉子は自分では若いつもりでいるのに。(タ・284)

(6) 二三日して丸子が、

「お父さん」

とまた診察室へ入ってきた。三太郎はそれで思い出した。結婚するの家を出るの、といっていたつけ。

「もう結婚したんか。」

と三太郎はいった。ヒトゴトみtaiである。(タ・541)

(7) 三太郎は息子に怒っているが、といって見捨てたり、や